

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678200108		
法人名	有限会社 千華		
事業所名	グループホーム鶴と亀		
所在地	鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849-18		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年01月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	県ホームページより
----------	---------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成23年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に溢れた環境が身近にあり、広い敷地では散歩が気軽に行えている。毎年5月には運動会、9月には敬老会が大々的に行われ、ご家族や近隣の住民にも参加してもらっている。スタッフの手作り料理が本人・ご家族、地域の方々にも評判となっている。又、ホームの多機能性を活かして、年4回新聞を作り地域の方々に配布。家庭的で地域に根ざした事業所作りを目指している。その他、経験豊富な看護師が各棟に配置され、機能訓練の充実や体調不良時の対応、緊急時の連携体制が作れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

診療所・歯科と同敷地内にあり、ホームの前には広々とした芝生の庭があり、利用者は散歩や日光浴などを行ったり、運動会をすることができ、地域住民との交流の場となっている。隣接している歯科や診療所には、鹿児島、福岡から専門医が来島し、定期的を受診ができる。事業所の協力医の内科受診、総合病院での専門科目受診等、複数の医療機関と関係が図られ、医療体制が整っている。入居者や家族は安心感があり、毎日を過ごしている。「笑顔をあふれる明るい家族」として過ごせるよう、スタッフは支援を行っている。ホーム内には犬が2匹飼われ、利用者と一緒に過ごし家庭的な雰囲気が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関等、目のつく所に掲示すると共に、申し送り時において音読を行い、各々が実践につなげている。	「尊厳・安心・地域・笑顔」の理念を玄関や事務所に提示し、毎朝の申し送り時、音読等で理念の共有を図り、言葉使いや笑顔等を意識しながら日々の業務につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加やホーム主催の行事へ近隣住民を招待し、交流を深めるなどの取り組みを行っている。又、近所の方が野菜を持って来られたり、利用者と一緒に畑仕事を行うなどの付き合いがある。	近所の人の野菜の差し入れや、施設の畑の手伝いもある。また地域行事の愛子祭り等に参加している。ホーム主催の運動会等に近隣の方の参加もあり、交流をおこなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでのケアの問題や出来事について記事にした新聞を年4回作成。ご家族や地域の方々に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の入退去状況や職員の人事移動、取り組んだ内容、行った行事の報告を行い参加者より意見・感想を頂いている。現在はその意見や感想に対しての結果を出すまでには至っていない。	会議で防災訓練に地域消防団員の参加、子供さんの畑の苗植えなど協力依頼の意見があり、消防団員への声かけや子供会への協力依頼を検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの行事又は運営推進会議へ参加していただき、職員や利用者との交流を行うことによって連携を取るようにしている。	事業者は包括支援センターや介護衛生課に入居者の相談や、介護支援専門員連絡会の研修会に参加したり、介護相談員の受け入れをするなど町と連携しながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しようとしたときは、さりげなく声かけし一緒について行くなど、拘束を行わず自由に暮らせるように配慮している。今後は定期的に勉強会を実施し、職員の学習を深めていきたい。	理念に尊厳を掲げている為、職員間でその都度話し合いをしたり、身体拘束排除マニュアルの内部研修を通じ、理解し身体拘束をしないケアの取り組みをしている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を配布し、自己学習を行い実際のケアに活かせる様に取り組んでいる。		

No	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状としては資料配布しか行えていないが、今後は勉強会や外部研修の受講を行っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を用いて、十分な説明を行い、理解・納得したうえで同意書の記述をお願いしている。又、解約時においても不足なく説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会への参加や家族会の実施、意見箱の設置があり、意見や要望を聞くことができるようにしている。今後は気軽に意見が出やすいように工夫をしていきたい。	家族とは面会時、電話で常に聞く姿勢で接している。しかし、運営推進会議や家族会などの発言機会が少ない。出された意見は申し送りやケース会議で、話し合い反映させている。	家族の心情を察し、アンケートや新聞の内容などを利用し、意見や要望が出しやすい機会づくりを望みます。又、これまで以上に家族とのコミュニケーションが図られ、意見等が反映できるよう望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見等はケース会議などで話し合い、運営に反映できるように努めているが、職員の不満や苦情については把握しきれていないことがあると思われる。	職員会議は話しやすい雰囲気、勤務体制、給与、手すりの取り付けなど、職員の意見や提案は活発に行われている。管理者や代表者への意見は伝えやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や経験に応じた給与体制と昇給等の整備に努めている。又、職員の勤務希望に対しても柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規雇用の職員については研修期間を設けている。又、各種研修への参加や案内を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡会への参加。他施設見学や自施設見学の受け入れ等を行っている。又、他事業所の勉強会への参加も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の自宅や入院先の病院で聞き取りを行うことで、生活環境を把握し、本人の意向を理解できるように努めている。又、ホームの見学も勧め、安心して入居できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の相談に応じ、入居申込みから自宅や入院先での聴き取りを通じ家族等の意向がくみとれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に入居希望者を訪ね、インテークを行い、ホームの主旨や必要条件を説明。それに見合わない場合は、その方に必要な介護サービスが受けられるように他事業所と連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理などの家事や畑仕事などを一緒に行い、職員と利用者が協力し合って過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や面会時の雰囲気作りを行い、足を運びやすい環境を作っている。又、お盆・お正月には帰省をお願いしている。その他定期的に利用者の状況報告がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加やお墓参り、面会時の配慮を行うことにより、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	利用者の馴染みの人、場所について把握している。お墓参りや出身地の敬老会参加で馴染みの人等の交流、家族支援で正月、お盆に自宅へ帰宅するなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い利用者同士の席順の工夫を行っている。又家事や行事等の共同作業を行い、利用者同士の良好な関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や転居の際には受け入れ先に情報提供を行っている。又、ホームでの思い出をアルバムにとじ本人もしくはご家族にお渡ししている。退去後においても行事への案内等の交流が持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でその人らしさを確認するように気をつけている。又、ご家族からも利用者に対してのアドバイスをできるようにしている。	日々のかかわりの中で利用者の様子の変化を察した場合、声かけをして本人の思いや意向の把握に努めている。ご家族からも情報を得るようにしている。把握したことについては介護記録に記録している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークを自宅や入院先で行い、利用者やご家族からの聞き取りを行っている。又、居宅のケアマネなどからも情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なサービス提供を行い、ケース記録や個人記録をとり、利用者の心身の状態を把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体での話し合いや担当職員によるアセスメントは定期的に行えてはいるが、本人の意向や希望の把握が不足しているように感じる。今後はチームの協力を得ながら改善していきたい。	ご本人の思いや意見は、日ごろののかかわりの中で聞き、家族からは面会時や電話連絡で把握し、反映させるようにしている。担当職員が決められ、日々のケース記録からケアマネージャーがモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録があり、月に一度はケアマネが確認しており、ケース会議等で個々の課題について他職員と話し合うことが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	墓参りや地域の敬老会への参加支援を行っている。又、ホーム主催の行事に、ご家族や地域の方々に参加出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関や福祉サービス、ボランティア・民生委員との連携を取りながら、ドライブやお花見など楽しみの時間を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医を定めてはいるが、本人及びご家族の希望があれば、そのかかりつけ医としている。又、通院の希望があれば職員の付き添いを行い、結果をご家族に報告している。	事業所の協力医の内科、同敷地内の歯科や診療所にて福岡・鹿児島の専門医の受診や、総合病院受診等、適切な医療や受診を支援している。本人や家族が希望する医療機関が受診できるように、支援し、受診結果は電話等で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職員との間に利用者の健康状態等について情報の共有があり、定期的な通院や急変時の連携体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、治療の経過や今後の見通しについて担当医やご家族と話し合っている。又、効果的に治療が行えるよう情報提供書を提出している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての方針を立てることが出来ていない。今後は事業所の能力やご家族の意向を確認し、どこまで行えるのかを明確にしていきたいと思う。	看取りの経験はあるが、前回より「方針を明確にする」課題が残っている。代表、主治医を含め、重度化した場合や終末期のあり方について検討中である。	早急に、事業所としての方針を明確にすると共に、利用者、家族との早期の話し合いの機会を作り、方針の統一を図っていくことを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中に過去の訓練を受けている者がいるが、定期的な訓練等は行っていないので、防災訓練時に取り入れていきたいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、昼間・夜間帯を想定しての避難訓練等を年2回利用者と共に行っているが、地域との協力体制が不十分であるので改善していきたいと思う。	年2回消防の協力で避難訓練等を行っている。避難時の居室出口の工夫や、ベランダから避難経路を階段からスロープに改修が行われている。	火災の昼夜、火元の想定、地震などあらゆる災害の想定で自主訓練や研修を行い、慌てず対応できる備えを望みます。災害時に地域の協力が得られるように期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の対応にばらつきがあるように思われる。プライバシーについての学習を深め、事業所としての方針を定めていきたい。	6月にプライバシー保護の社内研修を行い、利用者の自尊心を傷つけないように心がけ、言葉遣いにも注意をしながら対応している。記録物等の個人情報の取り扱いにも適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉に耳を傾け、家庭的な環境や雰囲気作りに努めている。又、本人からの希望があればその都度対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランのサービス内容にその人らしさを反映し、散歩などの外出については見守りを行い制限をしないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染めの代行や化粧水の購入代行など希望に応じ対応している。又、本人の馴染みのある理髪店等に連れて行く場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等の料理の下ごしらえに参加して頂いたり、一緒に食器洗いを行うことが出来ているが、職員と利用者が食事を一緒に食べる事が出来ていないのでこのことについて改善していきたい。	買い物や調理の下ごしらえ、下膳を職員と一緒にに行っている。職員は食事中は見守り、声かけ等を行い、利用者と一緒に食事はとっていないが同じ食事を食べている。またドライブなどへ弁当を持参し楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態や食事の好み、食べられる量を把握しながら食事やお茶を準備出来ている。又、その摂取状況は記録され、変わりがあればその都度話し合いが持たれ、必要な支援が行われている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には朝食前と夕食後で1日/2回、口腔ケアがあり、就寝時には入れ歯を消毒液につけている。又、各々の支援については、心身状態に合わせ個別的で自立的な援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	大体の排泄(排尿)リズムの情報がスタッフ間で共有されているものの、記録としては残っていない。今後はチェック表を作り、個々のパターンに応じた支援を行う。	一人ひとりの排泄パターンを職員間で共有している。オムツの人も屋間はリハビリパンツを着用し、職員は排泄パターンを活かしながら声かけし、トイレ誘導している。トイレでの自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便の状態についての情報が共有されており、食物繊維の多い食材のメニュー作りに努めている。又、定期的なトイレ誘導や軽体操も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や健康状態に応じ、柔軟な時間を設け、入浴を行っている。確認表があり、清潔が保てるよう配慮している。	入浴時間や曜日は決めてはいるが、利用者の希望にそって入浴前にはバイタルを行い、支援している。入浴を拒む利用者には相性のいい職員の声かけで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態や希望に応じ、居室やソファ一での休息の時間を随時設けている。又、ベッド周りの整理整頓が定期的に行われ清潔な環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方箋がピルケースに貼られており、随時内容の確認が行えるようになっている。又、症状の変化があった場合には主治医との連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴等の情報をスタッフ間で共有し、調理の下ごしらえや後片付け等の家事を手伝って頂いている。その他散歩やレク等の楽しみの時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応じ、墓参りや買い物などの支援を行うようにしている。又、車椅子の方に対しても送迎の工夫を行い、外出の支援を行っている。	敷地内外の散歩、中庭や芝生での外気浴、日光浴、買い物は日常出かけている。桜や向日葵の花見などに出かける他、地域行事への参加やドライブに出かけるなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人に金銭管理を任せている部分が多いが、トラブルにならないよう随時所持金の確認を行い、家族の了解も得ている。又、立替の購入についても行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望に応じてその都度電話を代わりにかけている。手紙の受け取りも行い、文書の目視での理解が難しい方には代読することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ等座れる場所が多くあり、ゆとりと寛ぎのある環境が作れている。又、神棚や畳の部屋があり、利用者にとって居心地がいいようにしている。	明るく家庭的な清潔感や季節感が感じられる空間に、利用者はソファや畳の腰かけなどに思い思いの場所で過ごしている。犬も飼われている。仏像が飾っており、利用者は花の水かえなど居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由な雰囲気作りのために、利用者同士の言動に対しなるべく注意や制限を加えないように努めている。又、リビング内にはソファが多くあり、寛ぎやすい環境になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れた家具等を持込んでいただいている。又、本人の常態に合わせベットの変更や居室の模様替えを随時行っている。	自宅から、衣装ケースやタンス、布団、写真、時計など持ち込み、また紙製の仏壇があり、住み慣れた部屋になっている。手作りのカレンダーや書き初めが飾られ利用者が心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一般的なバリアフリーのある中で、個々の状態に応じ、使いやすいテーブルや椅子の変更などの環境づくりを随時行っている。		